

岡崎市水道事業及び下水道事業経営委員会
第9回 会議録

1 日時

平成30年3月13日（火） 13時52分～15時50分

2 会場

男川浄水場 第1会議室

3 出席者

（委員）5名

委員長	畑田 康則	：愛知学泉大学現代マネジメント学部教授
委員	高丸 清志	：中部電力株式会社岡崎営業所契約課長
委員	河合 雅之	：東邦ガス株式会社岡崎営業所お客さま保安課長
委員	木俣 弘仁	：市民公募委員
委員	内田 裕子	：市民公募委員

（欠席委員）2名

副委員長	内藤 公士	：公認会計士・税理士
委員	清水 啓子	：岡崎商工会議所女性部前会長

（傍聴者）0名

なし

（事務局）15名

本多 克裕	：上下水道局長
小林 昭彦	：上下水道局技術担当局長
柴田 清博	：上下水道局総務課長
小林 立明	：上下水道局サービス課長
田口 富隆	：上下水道局水道工事課長
福澤 直樹	：上下水道局水道浄水課長
大久保和浩	：上下水道局下水施設課長
荻野 恭浩	：上下水道局下水工事課長
岡本 秀樹	：上下水道局総務課副課長
池田 宏	：上下水道局水道工事課副課長
鈴木 勝義	：上下水道局下水施設課副課長
杉浦 幹夫	：上下水道局総務課財務1係係長
神尾 清達	：上下水道局総務課財務2係係長
柴田 大知	：上下水道局水道工事課計画係係長
鶴田 憲明	：上下水道局下水施設課管渠対策係係長

4 開会

事務局

（本日の会議が、委員の半数以上が出席していることにより成立している旨を報告。また、本会議の公開について説明し、傍聴希望者がなかった旨を報告。）

（以降、岡崎市水道事業及び下水道事業経営委員会設置要綱第5条に基づき、会議の議長を委員長が務める。）

5 会議内容（要旨）

I テーマ 簡易水道統合事業について

【委員長】

簡水の給水原価と供給単価の関係から言いますと、このままいけば年間（水道事業が）約3億円の負担増となる。料金水準と体系の問題が上がってくる。こういう流れになってくると、今後、簡水のことも含めて料金体系を考えていく必要がある。例えば、簡水がこれだけコストがかかっているならば、ユニバーサルサービスを重視するならば、同一料金としないといけない。一方、地域によって異なる料金、いわゆる二重価格にすることもある。また、県水を使っている人、男川浄水場を使っている人、簡水を使っている人、これらを別々にコスト計算して、料金体系を設定することができる。色々な考え方があるので、これは大きな問題である。

【委員長】

岡崎市公共施設等マネジメント推進会議とはどんな会議ですか？

【事務局】

副市長をトップとした、関係部署の部長・課長をメンバーとしており、市の方針を定める内部の最高意思決定機関という位置付けです。

【委員長】

概算で言うと、60億円の資産を引き継いで、18億円がそのうちの負債ということになると42億円が資本金で処理するということですね。

【事務局】

会議では、資産を簿価で買い取れと言った意見もあった。

【委員長】

内部取引ですか？

【事務局】

不採算部門を水道事業で引き継ぐに当たって、資産を簿価で買い取れというのはいかがなものですかということです。（簡水が）公営企業会計化されておれば、減価償却費相当額が内部留保資金として積み上がっているわけですし、60億円の資産を（一般会計から水道事業会計に）あげるのも、18億円の負債を（上下水道局）で面倒を見ろというのはいかがなものかということです。局からすると、当然、減価償却費相当額分については何らかの財政支援をしてもならないと困るということは主張させていただいた。今後、基準外繰入金について、財政当局と協議していくこととなっている。

【委員長】

買い取る相手はどこですか？市ですか？どういった考え方なのですか？それはおかしいですね。一般企業では、いくらで資産を買ったとか、減価償却費をどれだけしていたかとは関係なく、その資産がどれくらいの収益を生むかによって、逆算して資産価額を決めている。簡易水道の資産がどれほどの収益を生むかによって、資産価額を決める。ひょっとしたら、60億円よりももっと低いかもしれない。しかし、料金を決める時に、資産維持率を決めないといけないので、そのときは、資産、資本の額が大きい方がいい。

【事務局】

簡水の水道料金体系は、水道事業に合わせています。

【委員長】

給水原価と供給単価の差を、今までは一般会計が負担していたが、今後もその差を一般会計が支援を継続してくれるのか？資産を一般会計が買えというのなら、同一の料金体系を維持することは難しくなるのでは？

【事務局】

公営企業会計になったとしても、簡水と水道事業の料金体系は同一と考えている。不採算だからと言って、料金体系を上げることは現実的に困難である。

【委員長】

資産を買えというようなことを言う人には、このままいったら、水道料金を地域によって変えないといけないということを主張しないといけない。

【事務局】

無償ということは合意を得ている。

【委員長】

ただし、負債は引き継ぐということですね。第1案は、簡易水道事業の浄水場をすべて廃止して、水道エリアから水道管を伸ばすのは技術的に無理なのか？第2案の一部浄水場存続案とは具体的には？

【事務局】

第1案は、ポンプをたくさん設置すれば、技術的には可能である。第2案は、水道事業エリアに近い簡易水道事業は、浄水場を廃止して、水道事業エリアから水道管を延伸して、給水する。水道事業エリアから遠い簡易水道事業は、既設の浄水場を活かして、給水する。

【C委員】

簡水事業を引き受けることにより、毎年、3億円ずつの赤字が生じる。そのために、市がどれくらいの支援をするのか？今までは市が3億円を負担していたわけですから、市がどれくらいの支援をしてくれるかをはっきりしておかないといけない。市の支援がないと、市民（水道利用者）にそれだけの負担を負わせるのかということです。

【事務局】

今は、簡易水道特別会計で、水道事業とは別会計ですので、一般会計から補てんされて収支の均衡を図っている。それが、水道事業に統合されてくると旧岡崎市地域の38万人の水道事業使用者がそれを負担することになるが、それはどうかという問題になる。

【委員長】

ユニバーサルサービスからすると、市内は均一料金ということでやっていくべきである。また、一般会計負担金の原資は、税金であり、税金ということは市民の負担ということで同じである。

【事務局】

過去にも簡易水道事業を水道事業に取り組んで同一の料金体系にしているので、99%の市民が1%の市民を助ける話ということではなくて、水道サービスを同一にすべきであるという考え方です。

【委員長】

局として考えるならば、事業別に会計をするのもいいけれど、内部資料として、水道と下水を合体した資料を作ってほしい。

【C委員】

簡水エリアでは、下水の料金はどうなっているのか？

【事務局】

簡水エリアは、農業集落排水で、水道使用量に応じた料金となっていない。世帯の構成人数で農集使用料を算出している。

Ⅱ テーマ 下水道管渠のストックマネジメント計画について

【委員長】

今後、P6の青線のように老朽管が増えていく想定がなされているということで、ライフサイクルコストを踏まえて50年間の経済計算をすべきである。

【事務局】

今回は管渠のストックマネジメント計画について説明したが、ポンプ場（マンホールポンプ所）のストックマネジメント計画を29、30年度で策定するので、下水道施設全体でライフサイクルコストを考えていく必要がある。

【委員長】

P6の赤線が50数年後から下がっているが（これでよいのか）。

【事務局】

現在の想定では、年8kmの改築を実施していけば、健全度（4.5）の比較的良好な状態の管渠となる。年8kmの改築実施は、5年総額86億円の計画になっており、国庫補助金の交付率が関係してくるため費用面から難しいこともある。

【委員長】

（改築を）やれなければ、その分次世代に負担が残ることになる。

【事務局】

ガイドラインに基づき考えており、赤い線の割合を少なくしていく。管渠の法定耐用年数は50年であるが、適切な維持管理をすることで目標耐用年数を75年にしていく。

Ⅲ テーマ 2年間のまとめ

【委員長】

- ① 水道の歴史・遺産を引き継いでいってほしい。現場、地域の状況を踏まえ、資産を守っていく責任がある。
- ② 市民・利用者をお客様として扱うのはおかしい。あくまでも、市民・利用者であり、この新しく建てられた男川浄水場も市民・利用者の共有物、皆のモノである。市は施設の管理をしているが、共同資産であるので、その維持管理には市民・利用者も負担をしてもらう。
- ③ マネジメント、コスト計算等において、会計に振り回されてはいけない。料金は、会計の問題であるが、会計の問題を超えた、行政として守らなければいけないものがある。「行政の心」を大切にしてほしい。

【A委員】

- ① 電力業界においても、人口減少、省エネ機器の普及により、電気料金は、伸びていない。
- ② 設備を維持し、安定的に電力を供給することが使命である。電気料金を値上げすることは難しい。維持管理をいかに効率化し、コストを下げるものが課題である。

【B委員】

- ① 資本費平準化債を活用して資金不足に対応するが、引き続きPDCAサイクルを回し、財務管理に努めてほしい。
- ② 新しい技術を取り入れて、支出を抑えてほしい。ガス、電気においては、自動検針を行っている。また、タブレット端末を使用し、人員削減を行っている。

【C委員】

- ① （下水、簡水は、）企業会計になる前に、市はたくさん借金をさせ、あとはおまえのところでやれよというのはおかしい。しっかりと財政当局と財政支援について交渉して、市民への説明責任を果たしてほしい。
- ② 山から流れてくる水が水源であり、山の方にも目を向けてほしい。

【D委員】

- ① 水道、下水道の仕組みがこんなにも複雑であるとは驚きであり、事業の重要性を再認識することができた。

(以上)